

ブロードコム (AVGO)

好決算も業績見通しの上方修正が無かったことが株価下落要因に。市場の注目は 2027 年以降の見通しと AI 企業上場による透明化にシフトか。

ナスダック | 半導体素子 | 業績フォロー

BLOOMBERG AVGO:US | REUTERS AVGO.OQ

6 月 3 日（米国時間）発表の 2Q26 の業績は、売上高が前年同期比で 47.9% 増の 221.9 億 USD、営業利益は 85.1% 増の 107.9 億 USD、当期純利益が 93.1 億 USD の増収増益となった。好決算ではあるが、決算発表の翌日である 6/4（米国時間）に株価は 4.47% 下落した。カンファレンスコールの中で業績見通しの引き上げがなかったことが要因であると報道されている。

事業概況は好調であり、主要なハイパースケーラーである Alphabet との数世代先までの TPU 開発の継続や AI ネットワーキングに関する長期契約が締結されている（2026 年 4 月発表）。Anthropic や Open AI、Meta などの主要ハイパースケーラーへの TPU 提供は長期に渡ることが期待されており、AI チップの需要は堅調である。一方で Non-GAAP の粗利率は 2Q26 の 77.1% であるのに対し、3Q26 では 74% 台に下がる見通しである。これは製品ミックスにおける AI チップの比重が高くなることによるものであり、また粗利率はネットワークスイッチやシリアルライザなどのネットワークング製品の方が高いと説明されている。このことから、AI チップの粗利率は相対的に低いか、あるいは今後低下する可能性があるということが推察される。XPU（AI カスタムチップの総称）は GPU と同様に多くの HBM（高帯域幅メモリ）を必要とするため、この見通しについては、直近のメモリ価格の高騰や需給逼迫による供給制約を受けている可能性がある。こうした条件が緩和されれば利益率が上振れる可能性はあるだろう。しかし 2026 年の収益計画が現在の受注残高に基づいている以上、2026 年中の決算内容で業績のサプライズを期待するのは難しいだろう。2027 年以降の業績見通しについての上方修正の有無が今後の株価ドライバーとなるだろう。

2Q26 中の自社株買いは 6 億 USD であり、配当総額の 30.9 億 USD と合わせても、フリーキャッシュフロー 102 億 USD と比して十分な還元余力を残している。2026 年 3 月の取締役会では 12 月末までの 100 億 USD を上限とした自社株買いが承認されている。2025 年も同様の上限額が承認され、2025 年 12 月末（1Q26 中）までに満額の買付けがなされた。このことから、自社株買いについては株価に織り込まれている可能性が高く、株価の上方インパクトに欠けるだろう。OpenAI や Anthropic などの大型 AI 企業が予定通りに上場を果たした場合、当社の株価は、今後開示される AI 企業の設備投資額の見通しに左右されることだろう。

四半期業績		2Q25	1Q26	2Q26	ΔY/Y	3Q26(F)
売上高	(10億USD)	15.00	19.31	22.19	47.9%	29.45
売上総利益	(10億USD)	10.20	13.16	15.42	51.2%	--
%粗利率		67.96	68.13	69.48	+1.51pts	--
営業利益	(10億USD)	5.83	8.56	10.79	85.1%	--
%営業利益率		38.85	44.34	48.62	+9.77pts	--
当期利益	(10億USD)	4.97	7.35	9.31	87.5%	--
希薄化後EPS	(USD)	1.03	1.50	1.91	85.4%	3.22
通期業績 (10月決算)		FY2023	FY2024	FY2025	ΔCAGR	FY2026(F)
売上高	(10億USD)	35.82	51.57	63.89	33.6%	105.82
当期利益	(10億USD)	14.08	5.90	23.13	28.1%	54.76
希薄化後EPS	(USD)	3.30	1.23	4.77	20.3%	10.94
通期配当	(USD)	1.84	2.11	2.36	13.3%	2.75

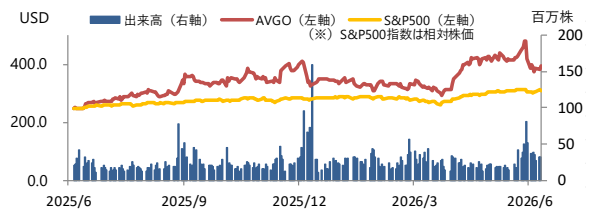
引用：企業公表値、ブルームバーグ（Fはブルームバーグ予想値、CAGRは3か年平均複利成長率）

予想配当 (USD)	2.92
株価 (USD)	376.71
実績 PER (倍)	114.22
予想 PER (倍)	32.56
時価総額 (10億 USD)	1,792.2
3ヵ月平均売買代金 (百万USD)	9,777.1

* 配当予想と予想PERはブルームバーグ、各数値は6/16終値による

* 実績PERは過去12ヶ月累計EPSによる

会社概要
ヒューレット・パカード(HP)の半導体部門として1961年に設立され、2006年にAVAGOテクノロジーとしてスピンオフ。2016年にBroadcomを吸収合併して現在の企業組織となる。現CEOはホック・タン氏。データセンターにおける通信機器や、接続インターフェース、ネットワーク配線などの製品ソリューションを提供。2023年11月に VMware社(VMW)の買収を完了し、仮想クラウド事業参入。組み込みチップ(SoC)や特定用途半導体(ASIC)のカスタムチップ世界最大手。



(出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

1. 株価リターンデータ *	AVGO	S&P500	β推計値	α(アルファ)
市場ベータ (β)	2.42	1.00	--	--
%日次平均リターン (r)	0.17	0.09	0.41	(0.24)
%日次標準偏差 (σ：シグマ)	2.89	0.78	6.97	4.08
リターン(r)/リスク(σ)比率	0.058	0.116	--	--
r + 1σ 超過利得・観測日数	29	29	--	--
r - 1σ 超過損失・観測日数	33	31	--	--
2. 競合・類似企業比較(市場)	NVDA	QCOM	MRVL	AVGO
直近株価 (26/6/16: USD)	207.4	278.7	214.1	376.71
時価総額 (26/6/16: 10億USD)	5,019.3	225.6	243.8	1,792
予想PER	23.2	19.9	68.9	32.56
%12ヶ月年率平均リターン (250日)	37.6	32.2	141.1	41.19
%年初来リターン (終値ベース)	9.96	212.13	25.01	8.60
AVGOのリターンとの相関係数(≤1.0)	0.5	0.3	0.5	1.00

* 表①②のリターン・標準偏差は過去12ヶ月(Trailing Twelve Month)の株価日次データにより算出

* 過去12ヶ月価格データ、直近株価、市場ベータ、時価総額、予想PERはBloombergデータに基づく

* 表①②の各項の定義および含意については次頁参照

業績詳細 (単位:10億USD)	NVDA	QCOM	MRVL	AVGO
3. 競合・類似企業比較(業績)				
直近決算発表日	5月20日	4月29日	5月27日	6月3日
直近決算区分	1Q27	2Q26	1Q27	2Q26
TTM・売上高	253.5	44.9	8.7	75.5
売上高CAGR (3か年)	47.02%	6.91%	17.69%	20.98%
%粗利率 (3か年平均)	73.18	55.43	45.67	66.47
%営業利益率 (3か年平均)	60.63	25.34	0.45	36.73

*TTM(trailing twelve months)は直近の四半期決算を基準とした過去12ヶ月の業績の集計値

*売上高CAGRと平均利益率は、各社直近決算日とその前年同期、前々年同期を起算日として適宜計算した各期TTM業績に基づく。(AVGOの場合、2Q26、2Q25、2Q24を基準としたTTM業績を参照)

4. 利益率推移	2Q25	1Q26	2Q26	ΔY/Y
半導体ソリューション売上	8.21	12.52	15.01	82.8%
%セグメント利益/売上	58.5	60.0	61.8	+3.31pts
インフラ向けソフトウェア売上	6.60	6.80	7.18	8.8%
%セグメント利益/売上	75.6	78.3	78.7	+3.06pts
共通費用	(3.96)	(4.26)	(4.14)	4.4%

* 上記セグメント利益には共通費用を含まない

5. 利益および還元推移	2Q25	1Q26	2Q26	ΔY/Y
当期純利益 (NI)	4.97	7.35	9.31	87.5%
営業キャッシュフロー (CFO)	6.56	8.26	10.49	60.1%
フリーキャッシュフロー (FCF)	6.41	8.01	10.26	60.1%
配当総額 *	2.79	3.09	3.09	11.0%
自社株買い総額 *	2.45	7.85	0.60	-75.5%
%還元総額/FCF	81.7	136.5	36.0	--

(引用：Bloomberg、企業公表値にもとづく。青・水色字はアナリストの計算による<表1~5共通>)

* 自社株買いは、優先配当および株式報酬関連を除く

* 掲載の企業公表値はGAAP開示の値であり、Non-GAAP開示の数値を含まない

<レポート右図表における『株価リターンデータ』の項目における用語説明>
レポート右図における『株価リターンデータ』の各項目を以下のように定義し、情報端末より引用、もしくは情報端末の市場データを用いて算出しています。

市場ベータ (β)	ブルームバーグ端末より参照した市場ベータ値 (未修正*)。当該株式と指数との連動性を示しており、当該株式を保有する投資家が取っている市場リスクの多寡を示す。 * 未修正とは、ブルームバーグ調整ベータと異なり、時価総額による調整を行っていないことを指す。
日次平均リターン (r)	観測期間 (過去 52 週) における日次リターン (前日終値に対する当日終値の上昇・下落率) の平均値。
日次標準偏差 (σ: シグマ)	観測期間 (過去 52 週) における日次リターンの標準偏差であり、投資家が取っている価格リスクを示す。
r + 1σ利得超過・観測日数	過去 52 週 (営業日数 250 日前後を想定) における実測の日次リターン (利得) が、平均リターン(r)と標準偏差 (σ)× 1 の和を超過した日数。
r - 1σ損失超過・観測日数	過去 52 週 (営業日数 250 日前後を想定) における実測の日次リターン (損失) が、平均リターン(r)と標準偏差 (σ)× 1 の差を超過した日数。
β推計値	S&P500 をベンチマーク指数とし、ベンチマークの日次リターンに当該株式の市場ベータを乗じて導出した、当該株式の日次リターンの推計値の過去 52 週平均値、および推計日次リターンの過去 52 週の標準偏差値。
α (アルファ)	β推計された日次リターンと実測日次リターンとの差分。投資家が当該個別株に投資することによって得られた市場リスクに対する理論上の超過利得 (損失) を示す。

* 当該株式のリターン、S&P500 (指数) リターン、β (ベータ) と α (アルファ) には以下の関係があると想定する。

$$R_{\text{株式}} = \alpha + \beta \times R_{\text{指数}}$$

$R_{\text{株式}}$: 当該株式の価格リターン
 $R_{\text{指数}}$: ベンチマークとなる指数の価格リターン

【レポートにおける免責・注意事項】
本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 4 番 2 号
TEL:03-3666-2101 URL : <http://www.phillip.co.jp/>
本レポートの作成者 : リサーチ部 三角友幸

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 (平 14.1.25)」に基づく表示>
・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。